

令和8年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	25	学校名	茨城県立佐和高等学校				課程	全日制		学校長名	國廣 正法					
教頭名	平山 博敬								事務（室）長名	小西 清美						
教職員数	教諭	40	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	2	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	4	技術職員等	2	計	54
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数			
	普通科		108	132	115	120	96	137			319	389	18			

2 目指す学校像

<p>(1) 平和と社会の正義を重んじ、誠実で自主的な実践力のある人間の育成</p> <p>(2) 人格の陶冶と学力の向上に努め、真理を求める創造性豊かな人間の育成</p> <p>(3) 文学や芸術を愛し、情操豊かな幅広い教養を身に付けた人間の育成</p> <p>(4) 国家や郷土を愛するとともに、自他を敬愛し、協調と連帯の精神に富む人間の育成</p> <p>(5) 心身の錬磨に努め、強靱な体力と忍耐力を備えた人間の育成</p>
--

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	地域社会に貢献する、心豊かな人間の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による、進路希望の実現
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	自分の進路実現を目指し、主体的に日々努力する生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現のため、ロイロノート等の教育ソフトを用いたICTの活用に関しては職員間で定着してきた。 ・授業改善に生徒の意見を取り入れるため、生徒代表との意見交換会を開催している。相互授業参観に関しては、授業改善に結びついているとは言えないので実施方法に再考の余地がある。 ・多くの生徒は真面目に学習に取り組んでいるが、家庭学習時間の確保及び学習習慣の確立は十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員に対する研修等をとおして、急速に進歩しているAIへの理解と授業への利活用を更に促進する。 ・生徒との意見交換会や相互授業参観における授業者への効果的なフィードバック方法を確立する。 ・生徒一人一人の学習習慣及び学習到達度を把握し、学年・教科と連携した授業の工夫・改善をすすめる必要がある。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な進路希望に対応するため、進路別ガイダンス等の行事や進路情報の充実を図っている。 ・生徒の進路希望の実現のため、進路指導部と学年の連携を密にしながらい進路指導を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が、自らの適性を見極め、目指す進路を真剣に考え、自主的に学習に取り組むように個別指導・支援の充実を図る。
生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> ・立哨指導やHR服装指導の実施を通して、生徒の標準服の着こなしに関しては改善しつつある。また、朝の立哨指導において、遅刻する生徒への声掛け等により、生徒の時間に対する意識向上にもつながっている。 ・SCの活用や生徒支援に関する職員研修等の取り組みをとおして職員のカウンセリングマインドが高まり、不安を抱える生徒も落ち着いた学校生活を送っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「SNSに関するトラブル」や「通学路の自転車走行についての苦情」が増加しているので、生徒の内面に訴え、状況を改善する手立てを更に工夫する必要がある。 ・人間関係のトラブル（他者との距離感）等の悩みを抱える生徒が増加傾向にあるため、SCの来校回数を増やすなど、さらに学校全体に相談しやすい雰囲気醸成する。

別紙様式1 (高)

<p>特別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会による臨時生徒総会等の開催など、自律的な活動が見られつつある。今後、行事等も含め学校生活の改善に向けた生徒の意見の吸い上げ等において期待できる。 ・部活動への参加率は高く、多くの生徒が熱心に活動に励んでおり、明るく活気ある校風づくりの一助となっている。 ・心の教育の一環として、ボランティア活動への参加を積極的に進めている。全校生徒による「全校ボランティアデー」における各種体験に加え、保育園訪問でのボランティア活動や近隣の海岸清掃を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学校生活の充実を図るため生徒会や各種委員会のさらなる活動の活性化を図る。 ・部活動への参加率の向上及び活動内容の充実を図るため、顧問間の連携を進めるとともに外部コーチ、部活動指導員の積極的な活用により顧問の負担軽減を図る。 ・ボランティア活動等による豊かな心の育成を確かなものにするため、引き続き参加率の向上や取り組み内容等の工夫・改善を図る必要がある。 ・生徒が目的意識を持ち、意欲ある学校生活を送るため、キャリア・パスポートの効果的な活用を推進していく必要がある。
<p>働き方改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方の改善やワーク・ライフ・バランスの考えが浸透し、時間外在校等時間は減少しつつあるが、依然として時間外在校時間が長時間の者も見られる。令和7年度の時間外在校時間において、月あたり80時間を超過する者は0になったが、月平均では25時間50分となっており、県平均を上回っている。また、月あたりの45時間超者の割合は令和6年度(12.1%)と比較してやや減少して8.1%となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質の維持・向上を図りつつ、業務の平準化と効率化をすすめることで長時間勤務の傾向のある教職員の負荷を軽減することが課題である。 ・定時退勤日や最終退庁時間等の活用をとおして、時間外在校等時間の減少を図る。

5 中期的目標

生徒の自己実現に資する教育活動

- 1 生徒一人一人の学力向上と進路希望の実現を目指し、創意に富む活力ある学校づくりを目指す。
- 2 生徒支援の充実と生徒指導の徹底を図るとともに、体験活動、ボランティア活動を積極的に推進し、校訓「君の心に聴け」を基盤とした「心の教育」の充実を図る。
- 3 特別活動の充実、部活動の活性化を推進し、心身の調和のとれた発達と個性の伸長及び自主・自立の精神に富む生徒の育成を図る。
- 4 学校の現状を踏まえ、教職員のワーク・ライフ・バランスを考慮した働き方改革を推進し、時間外在校等時間、月 45 時間以内、年 360 時間以内を目指す。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
授業改善を通じた確かな学力を育む学びの推進	(1) 協働的な学びと I C T機器を活用した質の高い授業づくりの推進 (2) 授業改善に向けた校内研修の実施と教員による相互授業参観の推進 (3) 生徒による授業評価（授業満足度）平均 3.4 以上の実現
豊かな心の育成	(1) 豊かな人間性と社会性を身に付ける特別活動の充実 (2) 思いやりや助け合いの心を育成する社会奉仕体験活動の推進 (3) 一人一人に寄り添う教育相談の体制と生徒支援の充実
未来を拓き夢を実現するキャリア教育の充実	(1) 一人一人の個性に寄り添った個別の進路指導・支援の充実 (2) 進路に関する実践的・体験的な活動の推進とキャリア・パスポートの活用促進 (3) 自己の可能性の追求や自己実現に向けたキャリア・カウンセリング機会の確保
地域住民に開かれ、信頼される学校づくり	(1) 地域のボランティア活動や行事等への積極的な参加の促進 (2) 地域に信頼される学校を目指す広報活動の充実と学校公開の推進 (3) 地域社会・保護者と連携した一体感のある学校づくりの推進
教職員の働き方改革	(1) 長時間労働の解消に向けた教職員在校等時間の詳細な把握・分析 (2) 校務分掌の見直しによる教職員のワーク・ライフ・バランスの実現 (3) 教職員の勤務時間の適正化の推進